



こんにちは!

市議員 井坂博文 です



連絡先/日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町 78 / 電話 432-3261 / FAX441-4968

11月市会の終了本会議で討論

8日、11月市会が終了した。市会に提案された、焼却灰溶融施設に係る訴訟上の和解(和解金154億円)について、党議員団は、本市の新たな負担を生じさせることがないよう求めて和解議案に賛成した。

本会議討論で私が討論に立ち、党議員団がプラント設備工事の計画段階から反対し事業の中止を求め、試運転開始

直後から基準値を大幅に超えるダイオキシン類の検出や相次ぐ重大なトラブルにもかかわらず工事の続行にしがみつ

地延命プランにある灰溶融施設整備計画を撤回し、本市と市民のごみ減量の徹底による延命策を確立するよう強く求めました。

なぜ「ヨウ素剤の事前配布」が必要なのか

10日、「うちら困ってねん@京都」の企画で、「ヨウ素剤を配つてよ@京都」

発端は、兵庫県篠山市の取り組み。高浜原発から50km圏で国の言うUPZ

圏内ではないが、風向き次第で放射線プルームが飛んでくる篠山市では、市民と市役所を上げた運動で昨年1月から安定ヨウ素剤を全市民対象に配布している。党市会議員団として視察に行き、市の担当者から詳しく経験を聞かせてもらった。その取り組みにアドバイザーとして参加したのが守田敏也さん。党議員団も学習会に来てもらい交流している。

守田さんや趣旨に賛同する人たちが声を上げて、篠山市の取り組みが全国に広がり、自治体にヨウ素剤事前配布を求める運動が進み、米原市では配布検討を始め、舞鶴市では備蓄場所が大幅に増えている。共通しているのは、原発事故を想定して、原発(再稼働)



11月市会の詳細は、市会議員団ホームページから「11月市会を終えて声明」をお読みください。

働)に賛成か反対ではなく、そのことはひとまず横においてヨウ素剤配布を通じて原発(事故)について考える機会にするということ。京都市は国の基準の通りで、備蓄方針すらやめている。京都市でもぜひ備蓄から事前配布にむけて運動を進めたいと強く思った集会だった。



11日、民商の京都市内協議会と京都市の懇談が市役所で開かれ、私も立ち会い、懇談を傍聴した。事前に民商側から市内業者の実態をまとめて「地域経済の振興を図るため、中小工商业者への施策拡充を求める要請文」と資料を京

業者の切実な要求と声を届ける

都市に届け、当日各局から回答を聞き、意見交換するもの。一つのテーマに局がまたがっているものもあり、産業観光局の担当者に窓口として骨を折ってもらいホントに感謝している。要請項目に沿って質疑応

答するところという間に予定の時間が過ぎが過ぎしてしまう。もつとやり取りをしてほしいものだが、議



「明日へ 戦争は罪悪である」

いい映画だった。京都映画センターが自主上映した、「明日へ」戦争は罪悪である。冒頭のシーンは2年前の戦争法強行に反対する国会前行動。デモやシュプレヒコールに一瞬ドキュメンタリーかなと思ったが、そのシーンも取り込んだフィクション映画だ。あの時代に戦争に

反対した反戦僧侶がいたことを初めて知った。仏の教えは、「人を殺すな」である。時勢に流されて戦争賛美し、若者を戦地に送り出す先頭に立っていた住職がなぜ反戦僧侶になったのかが衝撃的だ。おもしろい涙が溢れてしまった。まだ自主上映だが、劇場上映して多くの人に見てほしい映画だ。